

つなみさいがい 津波災害 そな に備えて

津波から自分を守るためには「ふだんの備え」と「早い避難」が必要です。

2011年3月11日の東日本大震災では、津波の大きな被害がありました。

島根県でも、過去に津波被害がありました。

もし、日本海で大きな地震が起きたら被害を受けるかもしれません。

津波のことをよく知り、ふだんから津波災害のために準備しましょう。

ひがしにほんだいしんさい
東日本大震災



堤防を越えて町に来る津波

写真提供：若手県宮古市 田老町漁業協同組合

しまねけん 島根県での津波の被害

にほんかいちゅうぶじしん 日本海中部地震

おきしまちよう
隠岐の島町



川が上がって来る津波の様子

おきしまちよう
隠岐の島町



津波の被害を受けた船

1983年5月に秋田県の近くで起きた地震(マグニチュード7.7)による津波では、隠岐地方・島根半島で家の中に水が入りました。船も壊れました。

写真提供：隠岐の島町

ほっかいどうなんせいおきじしん 北海道南西沖地震

おきしまちよう
隠岐の島町



津波の被害を受けた船

1993年7月の北海道の近くで起きた地震(マグニチュード7.8)による津波では、隠岐地方・島根半島で家の中に水が入りました。田んぼや畑、漁船などに被害がありました。

写真提供：隠岐の島町

つなみ ひなん に 津波の避難 (逃げる)こと。そのポイントは？

海の近くで地震の揺れを感じたらすぐ逃げましょう

海の近くで強い地面の揺れを感じたときや、弱くても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、すぐに津波が来るかもしれません。すぐに海辺を離れ、急いで安全な場所に逃げましょう。



より安全な場所へ逃げましょう

津波が来るときは、できるだけ早く安全な場所に避難しましょう。避難するのに時間がないときは、近くの高い安全な所に逃げましょう。



歩いて逃げましょう

車での避難は、渋滞にあり、逃げ遅れるかもしれません。歩いて逃げましょう。



警報、注意報が出たらすぐに避難

感じた揺れが大きなくても、(または揺れを感じなくても)、津波は起きます。津波警報・注意報が出たら避難しましょう。



つなみ じょうほう 津波の情報

地震の後しばらくは、気象庁からの情報に注意

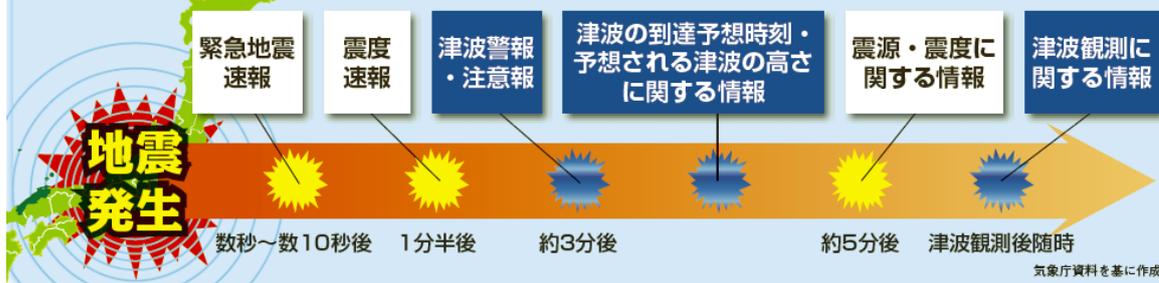
警報・注意報の種類	津波の高さの予想		とても大きな地震のときの言い方	すること
	数字で言うと	(高さ)		
大津波警報	10m超	(10m高さ)	巨大	海岸や川にいる人は、すぐに高いところへ避けてください。津波は、何度もやってきます。津波警報がなくなるまでは、安全な場所にいてください。できるだけ高い所に逃げましょう！
	10m	(5m高さ≤10m)		
	5m	(3m高さ≤5m)		
津波警報	3m	(1m高さ≤3m)	高い	
津波注意報	1m	(0.2m高さ≤1m)	(なし)	海の中にいる人は、すぐに海から離れてください。津波注意報がなくなるまでは海岸に近づかないでください。

※マグニチュード8より大きい地震(巨大地震)の時は、津波の高さの予想は「巨大」「高い」といいます。

発表よりも高い津波が来ることがあります。出来るだけ高い所に逃げましょう。

気象庁が発表する情報の流れ

日本近海で発生した地震



気象庁資料を基に作成

情報はどうやって手に入れる？

テレビ・ラジオ

地震や津波の情報が放送されます。
ラジオは運ぶことができます。
停電した時にも使えます。



携帯電話

登録している人に、島根県や一部の市町村などから、地震や津波の情報や天気の情報などがメールで送られます。



防災行政無線など

市役所や役場から無線やケーブルテレビなどにより、注意や避難について放送されます。



災害情報を早く知るためには！！ ～地震・津波情報は「しまね防災メール」から～

登録すると、気象庁からの津波や地震、天気の情報などがメールで携帯電話にきます。(やさしい日本語)

bousai-shimane-ej@xpressmail.jp へ空メールを送ります。

登録用メールが返信されます。返信されたメールで登録用URLをクリックして、配信希望情報などを登録してください。



津波の特徴

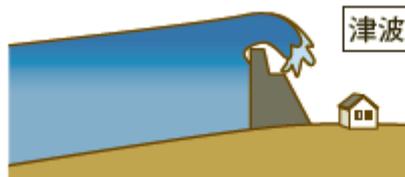
津波が来るまでの時間はわずかです

秋田県の近くで起きた日本海中部地震の震源から島根県までの距離は約700kmでした。地震が起きてから約1.5時間後に津波が島根県沿岸にきました。もし、島根県の沖で地震が起きると、短い時間で津波が来る可能性があります。



津波は大きなエネルギーです

普通の波（波浪）と違い、津波は海水全体が「大きな水のかたまり」となってやってきます。50cmの津波でも人は立つことができません。1mを超えると家などに被害が出始めます。



津波は何度も繰り返しやってきます

津波は、長いときは1日以上何度も繰り返しやってきます。また、最初の波より大きい津波が後で来ることもあります。



海からはなれているところでも注意しましょう

津波は陸地や川を上がってきます。海の近く以外の所でも津波警報・注意報に注意しましょう。



ふだんからの準備

家族で話し合しましょう

津波から避難する時に、避難する場所や逃げる道、家族の連絡方法などを決めておきましょう。

決めたことは、まとめて紙に書いて家の中に貼っておくなど、家族全員がわかるようにしましょう。



高齢者などの避難について、地域で助け合しましょう

高齢者、要介護者、障がい者、妊婦、乳幼児、外国人などの避難について、地域で助け合えるよう普段から話し合しましょう。



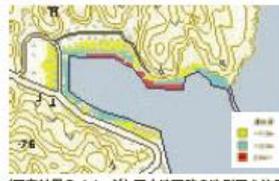
防災訓練に参加しましょう

住んでいる市町村や、地域の防災訓練に積極的に参加して、避難に役立てましょう。



住んでいる地域の津波の危険な箇所は？

津波で浸水する可能性がある場所を県が調べています。
※結果はまとまったら公表します。



(調査結果のイメージ) 国土地理院の地形図を使用

非常持出品の準備をしておきましょう

災害のときにすぐ持ち出せるように、非常持出品をまとめておきましょう。

たとえば

- 3日分の食料 (乾パン、缶詰、栄養補助食品、アメ・チョコレート、飲料水(1人1日3ℓぐらい))
- 避難用品 (懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池、ヘルメット・防災ずきん)
- 救急用品 (持病の薬、絆創膏、消毒薬、胃腸薬、便秘薬・生理用品)
- 生活用品 (厚手の手袋、缶切り、ライター・マッチ、ナイフ、携帯用トイレ)
- 貴重品 (現金、10円玉 (公衆電話用)、預金通帳・保険証・免許証 (コピー)、印鑑)
- 衣類等 (下着・靴下、長袖・長ズボン、防寒具、雨具)



お知らせ

～災害時の連絡方法～

地震などの大きな災害が起きた時、家族や知り合いと安否の確認や避難場所などの連絡をとるためのサービスです。

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方

「171」に電話をします。ガイダンスに従って伝言の録音・再生をします。

災害用伝言板サービスの使い方

携帯電話のWeb サービスストップ画面の「災害用伝言板」で、伝言の登録・確認ができます。

島根県 防災部 防災危機管理課

☎0852-22-5885

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地

URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/bosaikikikanri/>

2014年8月